

2024年6月22日

立教大学国際学術研究交流制度
2024年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	経済学部・教授
氏名	巖 成男
派遣機関名	School of Transportation and Logistics, Southwest Jiaotong University 所在国：中国
研究テーマ	「一带一路」の推進が中国の西部内陸地域経済の国際化に及ぼした影響に関する研究
派遣期間	2024年5月18日～2024年6月15日（29日間）
研究経費	536,290円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2024年5月18日	離日
2024年5月20日	西南交通大学交通輸送与物流管理学院の王群智先生（受入教授）の研究室を訪ね、海外訪問研究者に割り当てられた座席、インターネット、資料検索などの案内を受ける
2024年5月21日	四川大学を訪ね、一带一路プロジェクト化学実験室、经济学院等の研究者らと交流
2024年5月24日	西北大学（陝西省西安市）の経済管理学院を訪ね、馬莉莉院長はじめ院内研究者らと交流
2024年5月25日	西安市の国際港務区（一带一路に向けた内陸国際貿易区）を見学
2024年5月28日	四川省成都市にある「一带一路」の欧州班列コンテナ集積地を見学
2024年6月6日	四川省成都市にある物流協会を訪問し、協会副会長、メンバー企業の経営者らと交流
2024年6月14日	成都市政府物流弁工室責任者との交流
2024年6月15日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

当初における今回の海外研究と交流に関する目標は以下の三つであった。第一は、中国政府が強く推し進めている「一帯一路」イニシアティブ（長期的な地政経済学的戦略）の現状（成果と課題）について、その中心地である成都（四川省）と西安（陝西省）の現地にて、自分の目で確認すること。第二は、この課題に関して現地の研究者や実務家、そして一般の市民と交流をし、最新の研究成果の収集と共に現場の実体験を伺う。第三は、研究課題の遂行と併せて、現地の大学（および研究者）との関係構築を試み、今後の立教大学と中国西部内陸大学との国際交流ネットワークを作る。

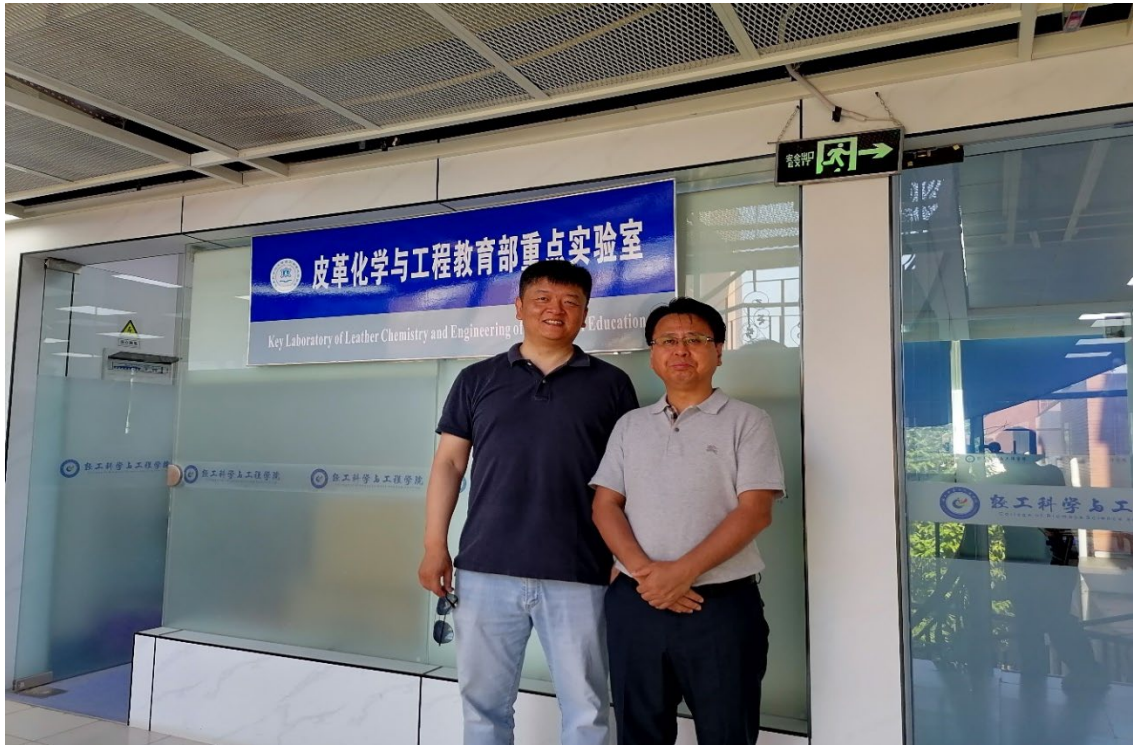
そしてこれらの目標は、約1カ月という派遣期間内で概ね達成できたと言える。まず、「一帯一路」イニシアティブに関する理解は十二分に深まった。これまでの日本に在りながらの先行研究のサーベイやマスコミの報道を通じて得られた情報ではなく、現地を見て、聞いて、自分の足で歩いて調査した内容とそれに基づく結論は、新鮮さと衝撃に満ちたものであった。これから順次、学術論文や学会報告、さらには大学での授業内容として社会と学生に還元していきたい。やはり、「百聞は一見に如かず」であった。

特に印象深かったことは、一帯一路の恩恵がすべての地域、企業、（業種の）個人に等しく行きわたっているわけではなく、国、地域全体としては望ましい、成果のある発展戦略と政策であっても、その推進過程で関係するさまざまなアクター間の利益調整は非常に困難な作業であるということ、物流業界の人や経営者、そして一般市民との交流の中で伺うことができた。これは大学の研究者の間でも同じく見られる現象で、一帯一路に関連する研究をする研究者らは、国の重大プロジェクト関連の予算から研究費や経費を獲得することができ、最先端の機器・設備を備えた研究室を運営することができるが、それがほかの研究者の絶対的／相対的剥奪感の醸成につながる、という思わぬ悪影響をもたらす、というような事実は、現場で見て、聞いて知ることができた。

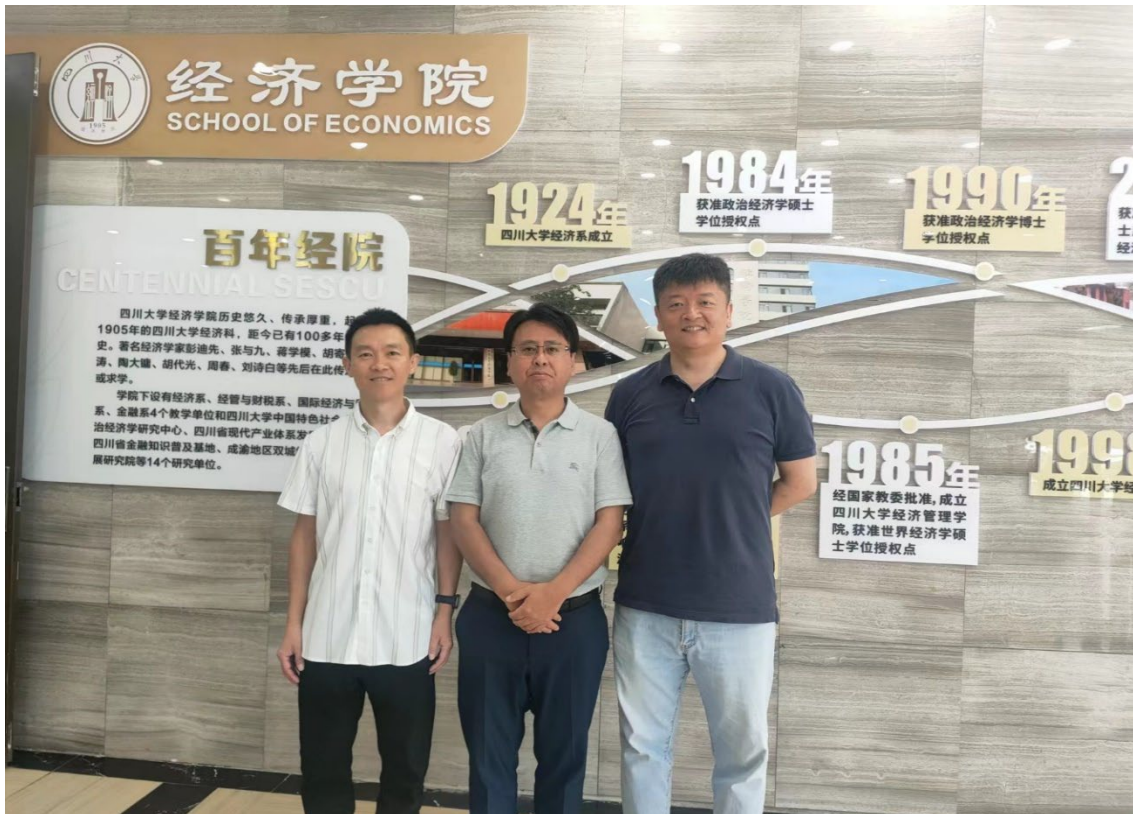
派遣期間内では、できるだけ研究室にこもらず、四川省内と近辺の大学を精力的に回り、多くの研究者らと交流を行った。派遣受け入れ先の西南交通大学の交通輸送与物流管理学院は勿論、当該大学の経済管理学院、四川大学の轻工科学与工程学院、经济学院、西北大学の経済管理学院などを訪問し、多くの研究者たちから一帯一路の推進が中国内陸地域の経済発展、とりわけ国際化に及ぼしている影響に関する知見（研究成果、実体験、および受け入れている一帯一路沿線国家からの留学生の状況など）を伺うことができた。日本の大学からの研究者が自分らの研究に、さらに中国政府の重大な発展戦略に関心を持っていることに、中国の研究者たちは歓迎の意を示し、熱心に、そして率直に教えてくれた。

このような研究調査を第一の目的とした大学訪問であったが、今後の国際的交流の枠組みや国際共同研究のネットワークづくりを意識して、立教大学、特に経済学部を積極的に紹介して、機関間の国際交流協定の可能性を探った。訪問した各学院の中で、特に私たちの経済学部との交流の可能性が高く、お互いの利益も最大化できると考えた二つの学院（四川大学の经济学院、西北大学の経済管理学院）とは協定の締結に関する意向を確認し、現在経済学部内で具体的な協定の内容やスケジュールを確認している。立教大学は中国大陸にたくさんの国際交流協定校を持っているが、西部内陸地域の大学との交流はほとんどなく、今回の経済学部と先方の大学との交流を契機に、立教大学の学生や研究者が中国の西部内陸地域にアクセスできる機会を作れると考えている。

このような充実かつ成果の多い海外研究の機会を与えてくれたことに感謝を申しあげる。



(1) 四川大学の「一带一路」プロジェクト化学工程実験室を訪問



(2) 四川大学经济学院の FengJian 教授（学生工作担当の党委副書記）と交流



(3) 西北大学經濟管理学院の Malili 院長と交流